

# 核兵器・核実験モニター

NUCLEAR WEAPON & NUCLEAR TEST MONITOR

- 発行所 平和資料協同組合(ピースデポ)/PCDS(太平洋軍備撤廃運動:  
Pacific Campaign for Disarmament and Security)  
〒223-0051 横浜市港北区箕輪町3-3-1 日吉グリーネ102号  
TEL:045-563-5101 FAX:045-563-9907 E-mail:peacedepot@y.email.ne.jp
- 編集責任者 梅林宏道
- 郵便振替 口座番号:00280-0-38075 加入者名:平和資料協同組合

毎月2回1日、  
15日に発行。

1996年4月23日第三種郵便物認可

70<sup>98/6/1</sup>

¥200

インド/パキスタンで核兵器競争

## NPT体制の矛盾が噴出

正念場にたたされた核兵器廃絶運動

インドが5月11日に核実験を強行した。追隨したパキスタンが5月30日に2度目の核実験を終了した。その間の20日間に、世界のありようは一変した。南アジアの核軍拡競争はだれの目にも明らかになり、激しさを増している。南アジアにとどまらず、核兵器開発のしきいは急激に低くなった。21世紀を前にして、人類はどうなるのだろうか。核保有国の核軍縮義務の履行を強く迫り、核不拡散条約(NPT)体制に正義を回復する以外に道はない。

### 実験の経過

24年の沈黙を破って実行されたインドの核実験は、皮肉をこめたタイミングで行われた。ジュネーブにおけるNPT再検討会議準備委員会が10日間の会議を5月8日に終了し、11日に軍縮会議(CD)が開始されたその日に、実験が行われたのである。インドが批判し、参加を拒否しているNPT準備委員会は、核軍縮の袋小路を露呈していた。最初の実験についてのインド政府の発表文は、本誌前号に訳出した。つづいて13日に行われた実験のときの短い政府発表を3ページに訳出する。

5月11日以降の実験の経過は、次のようなものであった。

- 5月11日 インド3回の地下核実験
- 5月13日 インド2回の核実験

インド実験公式情報/  
一問一答全訳  
3~6ページ

### 印パ・プロジェクトを始めます。

印パをめぐる核問題は、世界の核軍縮、ひいては国際政治全体に重大な影響を及ぼすことが必至です。それに関する正確な情報をつかみ、分析し、日本の市民に提供することは、ピースデポの大切な仕事であると考え、とりあえず短期の特別プロ

ジェクトを立ち上げることにしました。現在のスタッフ体制をこえる仕事であり、新たな短期スタッフと財源を募っての取り組みとなります。追って詳細をお伝えしますが、関心のある方はご連絡ください。

- 5月28日 パキスタン5回の核実験
- 5月30日 パキスタン1回の核実験  
(最初2回という情報が流れた)

インドのバジパイ首相は、5月15日、『インディア・トゥデー』とのインタビューで「インドはいまや核兵器国である」と述べ、18日にはインド政府企画委員会の公式声明で「こんにち、インドは核兵器国である」と宣言した。インドの核実験報道には、単にパキスタンを意識したものではなくて、世界政治に大国として名乗りを上げるといったトーンが強く現れている。

インドに比較すると控えめだが、パキスタンのカーン外相もまた、「インドもパキスタンも大量破壊兵器をもっている」と述べたことを5月29日の『ボイス・オブ・アメ

リカ』は伝えている。パキスタンの場合、インドとちがって主要にはインドを対象とした言動がめだつ。「イスラムの核」という文脈があるが、その方向への戦略は現在のところ弱いと見うけられる。

### 実験の技術的評価

インドの実験については、5月17日にインド原子力委員長や国防開発センターなど核実験の責任組織が声明を発表して記者会見をおこなった。その全訳を3~6ページに掲載した。この声明とそれにつづく記者団との興味深いやりとりに含まれる情報によって、ある程度の技術情報を得ることができる。パキスタンの場合、これまでのところ公式の技術情報

3ページへつづく→◆

# インド核実験 世界と日本の反応

5月11日と13日の2度にわたるインド核実験強行に対する世界各国と日本国内の政府、議会などの反応のうち、5月11日から20日までに報道されたものを以下にまとめた。パキスタンの反応は別に扱う。パキスタンの核実験に対する反応は、次号でまとめる。

## ●日本政府、国会、政党

政府の抗議声明(11日)／対インド無償開発援助凍結検討開始(11日)／小淵外相、駐日インド大使に政府の抗議を正式伝達(12日)／野党各党、それぞれ強い非難声明(12日)／村岡官房長官「関係国に最大限の自制求める」との談話(13日)／参院本会議の抗議決議(全会一致、13日)／衆院本会議の抗議決議(全会一致、14日)／対インド追加制裁措置として新規円借款凍結、世銀などへ対インド融資審査への配慮要請、大使一時召還など決定(14日)／一時帰国中の平林・駐インド大使、小淵外相に、対インド制裁措置効果ある可能性を報告(17日)／一時帰国中の平林・駐インド大使、南アジアでの核拡散に強い懸念を表明(18日)

## ●日本の地方自治体

広島市長、遺憾の意と核開発競争への懸念表明(11日)／長崎市長、抗議の談話(11日)／日本非核自治体協議会、東京都、都内武蔵村山市、静岡県焼津市長と市議会議員、東京都文京、中央、港、新宿、渋谷、中野、杉並、豊島の各区が抗議文(12日)／広島、長崎両市長、2回目の核実験に対し、それぞれ強く批判(13日)／東京都渋谷区議会の抗議決議(全会一致、13日)／東京都議会、抗議文(13日)／東京都新宿区議会、北区長、抗議の要請書(13日)／京都府知事と府議会議員の抗議文(連名、13日)／大阪市、ムンバイ(ボンベイ)市との実質的交流当面停止決定(13日)／日本非核自治体協議会、2度目のインド核実験に対する抗議文(14日)／長崎市長と同市議会議員の抗議文(連名、14日)／長崎市長、全国の非核自治体宣言都市に抗議行動呼びかけ(18日)

## ●国連

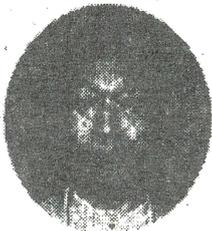
アナン事務総長、「(核実験モラトリアムとCTBTの)流れに矛盾」と批判(11日)／安保理、非公式協議。ロシアは態度明かさず(12日)／安保理、NPTとCTBT未加盟国への遅滞ない無条件加盟を求める議長声明採択(14日)

## ●世界の国々

(以下に本文の全文を掲載。新聞の見出しは「非難の合唱では不十分」)

# 言 提案あり！ 核兵器政策

インドが核実験を行った。5月12日の朝、ジュネーブから開会したばかりの空港で私はこれを知った。大きな空襲であった。核拡散が、ついには現実のものとなった。ジュネーブでは、核拡散防止条約(NPT)の再検討のための政府間会議が開かれ、非政府組織(NGO)の会議が並行して開かれた。会議が終わって、NGO代表たちは「核軍縮交渉の袋小路」を深刻に実感していた。帰路の機内で私は悩みながら、その打開の道についてずつと考えていた。



梅林 宏道  
太平洋軍備縮減運動  
国際コーディネーター

## 民主党は、「核の傘政策」で 自民党との違いを示してほしい

インドが核実験を行った。この道理に目をつむり、核兵器独占の現状にあぐらをかくべきではない。核兵器は、核兵器の「究極的廃絶」を言うが、率先して核兵器をなくす熱意はない。この政治不在を打開する手より先には使わない宣言を、私は民主党に切に望みたい。「官僚の政治」から「市民の政治」を掲げる民主党は、自民党との違いを国民の前に太い柱で明らかにすることが求められている。「核兵器政策」においてこそ、核保有国と、その同盟国はドイツが一方的に宣言するてほしい。

5月12日の朝、ジュネーブから帰国したばかりの空港で私はこれを知った。大きな空襲であった。核拡散が、ついには現実のものとなった。ジュネーブでは、核拡散防止条約(NPT)の再検討のための政府間会議が開かれ、非政府組織(NGO)の会議が並行して開かれた。会議が終わって、NGO代表たちは「核軍縮交渉の袋小路」を深刻に実感していた。帰路の機内で私は悩みながら、その打開の道についてずつと考えていた。

英、懸念表明する声明(11日)／仏「周辺  
の国々に自制呼びかける」との声明発表  
(11日)／スリランカ懸念表明(11日)／豪  
駐インド大使一時召還決定、ダウナー外相  
の批判(12日)／カナダ、駐インド大使一時  
召還決定(12日)／独経済協力・開発省、  
対インド開発援助資金凍結の方針明かす  
7ページへつづく

◆◀ 1ページからつづく

を与える機会をもっていない。現在得られている基本情報を右欄に表としてまとめた。

いずれの場合にも、技術情報のもつ政治的、戦略的意味が大きい。誇張されたり、潤色されたり、隠されたりしている可能性について注意を払う必要がある。とくに爆発力の評価については、観測されている地震波データを説明するのに妥当性を欠き、疑問視されている。

両国とも「計画された一連の核実験は終わった」と言っているが、これは決して「核実験はこれで最後だ」と言っているのではない。誤解があってはならない。

また核爆発装置が、爆弾やミサイルという兵器として、どの程度使用可能な状態にまで完成しているのかに関しても、冷静な分析が必要である。いずれにしても、両国とも核兵器の生産と配備の段階に進むことが、もはや避けられない状態になっていると考えられる。気が滅入る話である。

それぞれの国の核/ミサイルの技術的背景についての解説は別の機会にゆずる。

### 環境/健康の放射線被害

インドとパキスタンの一連の実験で懸念されるのは、実験場周辺での放射線被害である。いずれの実験においても地下実験の深さについての情報が公表されていない。5ページの応答にあるとおり、インドは情報を与えることを拒否した。地下核実験においても、放射性ガスの噴出などで放射能の放出がありうるこ

## インド・パキスタン核実験 技術情報のまとめ

### インド

実験コード名:シャクティ作戦(「シャクティ」はサンスクリットで「力」の意。)

実験場:ラジャスタン州タール砂漠ポカランの地下

- 5月11日午後3時45分 同時に3回
- 核分裂装置 爆発力12kt(キロトン、高性能火薬換算、以下同じ)

- 熱核装置 爆発力43kt
- 低爆発力装置 爆発力1kt以下

- 5月13日午後0時21分 同時に2回
- 低爆発力装置 爆発力0.2~0.6kt

### パキスタン

実験場:バルチスタン州チャガイ丘陵の地下

- 5月28日午後3時16分 同時に5回
- 核分裂装置のみ 最大のものの爆発力40~45kt。他の4発は小さい

- 5月30日午後1時10分 1回
- 核分裂装置 爆発力14~15kt

(注)爆発力は、印パ政府の発表や報道による。部分的に信憑性に疑問がもたれている。

は、よく知られている。

インドの場合、すでにいくつかの症状が周辺住民に現れていることが報道されている。5回の実験のあとに、皮膚や目の炎症、鼻血や吐き気の症状が10人をこす住民から訴えられているという。また、1974年の実験のときを覚えている住民がいて、そのときにも似たことが起こったと証言しているという。

厳しく報道官制が敷かれてゆく分野の問題であるが、それだけに国際的な監視の目が必要である。(梅林宏道)



### インド政府記者発表(1998.5.13)

## 計画された一連の核実験は完了した

5月11日に始まった、核実験計画のプログラムの継続として、さらに2回のキロトン以下の核実験が、1998年5月13日12時21分(グリニッジ標準時間6時51分)、ポカラン実験場で実施された。

実験は、設計のコンピュータシミュレーション改善のための、また必要ときに未臨界実験を実施する能力を獲得するための追加的データをえるために実施された。

大気への放射能放出はなく、実験は完全に閉じこめられた。

これで計画された一連の実験は完了する。

インド政府は、1998年5月11日の声明において提案した枠組み内において、包括的核実験禁止条約(CTBT)にある義務条項のいくつかに参加することを考慮していることを、改めて意思表示する。

## 全訳資料 ①

(1998年5月17日、ニューデリー)

# インド原子力省と国防研究開発機関との共同声明

1998年5月11-13日にポカラン実験場で行った五つの核装置の実験は、原子力省(DAE)と国防研究開発機関(DRDO)との多年のパイオニア・ワークの成果である。

DAEは原子力科学技術の各分野にわたって先駆的な研究開発を進めてきた。発電用原子炉、燃料再処理工場、および燃料サイクルにかかわる他の諸活動について設計し、建設する包括的な自力の能力を発展させた。DAEはまた研究炉の開発と建設を行い、工業と農

業における原子力平和利用を強力に推進してきた。バーバー原子力研究センター(BARC)はわが国における多様な専門分野にまたがる大規模な研究機関の一つであり、広範な領域で新しい技術システムをつくり出す能力を有する。今回の五つの核実験に用いられた核分裂性物質は完全に国産であり、DAEの諸組織が有する技術に基づいて自力で生産された。

DRDOは軍の新型兵器システムの研究開発に従事する大きな機関の一つで

あり、一連の防衛技術の最前線に位置している。DRDOは、技術を生産部門に移転する部局と協同して、防衛システムの設計開発および実証にかかわる多数のプロジェクトを有する。爆発物と爆発関連技術、およびシステム工学とシステム統合に関するDRDOの経験と専門知識こそが、今回実験された五つの装置の重要部分をなしている。

種々の核爆発物——例えば核分裂、ブースつき核分裂、熱核、および低イールド(イールド=発生エネルギー量)——の

設計と開発は、BARCの25年を超える研究開発によってなされた。BARCはまた、部品の保存可能期間の長期化や、イールド対重量比の最適化など、新しい構想を作りだした。また核分裂性物質を適切な形に仕上げることもBARCによって行われた。1974年5月の平和目的の核爆発(訳注:インドは当時からそう主張している)は、核装置に対するインドの能力を早い時期に、かつ成功裡に実験して見せたものである。

DRDO所属の研究所の一つは、確証済み設計の兵器化を担当した。すなわち新型起爆装置の設計と試験と製造、頑丈な高電圧点火システム、インターフェース工学、システム工学、軍事用仕様に適するシステム統合などである。他の三つの研究所が、空気力学、発火装置、信管、安全インターロック、試験飛行などで貢献した。またDRDOは一連の試験を行い、必要な操作上の余裕を達成した。さらにDRDOは、DAEとともに核実

験を実施するための現地工事を担当した。

DRDOとDAEは、インドが核の脅威を消去する能力をもつという国家的使命のもとに、それぞれの技術力を効果的に効率よく調整し力を合わせてきた。

5月11日の三つの核実験は、約12キロトンのイールドをもつ核分裂装置、約43キロトンの熱核装置、およびキロン未満の装置を用いたものであった。これらの装置はすべて同時に爆発された。5月11日の熱核装置のイールドに関しては、爆発の閉じ込めの問題や、近くのいくつかの村の建物や構造物への被害を最小限に止めることから決められた、厳しい規準に合うように計画されたことを指摘しておきたい。

5月13日に、さらに二つのキロン未満の核実験が行われた。これらもまた同時に爆発された。それぞれのイールドは0.2から0.6キロトンの範囲内にある。

5月11日の核実験は、13日と同様、完

全に閉じ込められ、大気中への放射能の放出はなかった。

これら装置のイールドの測定値は事前の設計値と一致した。DAEが開発した複雑なソフトウェアを用いて装置の設計とイールドの予測がなされた。

5月11-13日の核実験によって、いろいろな使用目的と運搬手段に合わせて、さまざまなイールドをもつ核兵器を設計できるわれわれの能力を確認する上での貴重なデータが取得できた。今回の核実験によって、新しい設計をコンピュータによってシミュレートする能力が大いに高められたし、将来必要とあれば、未臨界実験の段階に進むこともできる。

DAEとDRDOとは、今回の作業を見事に支援したインド陸軍とインド空軍に対して感謝したい。またDAEとDRDOとが核の脅威に対抗する能力を有することに信頼を寄せてきた現政府と、これまでの政府に対しても感謝する。

(訳:大塚益比古)

## 全訳資料 ②

# 記者会見一問一答

出席者:

R. チダムバラム博士(インド原子力委員長、原子力省長官) / A. P. J. アブダル・カラム博士(ラクシャ・マントリ科学顧問、国防研究開発省長官) / アニル・カドゥカール博士(バーバー原子力研究センター所長) / K. サンタナム博士(国防研究開発機関技術担当代表顧問)

**Q** 熱核装置はどのくらい水爆に近いものか? 引き金の核分裂に使われた物質は何か?

チダムバラム 水爆とはその俗称である。水爆には核分裂による引き金があり、それと別に適切に配置する必要のある熱核反応物質がある。したがってそれは2段階からなる装置である。第2段がイールド(発生エネルギー量)の大部分を占める。その値はきわめて大きなものにできるが、われわれの場合は、まわりの住民に及ぶ恐れのある被害の点からイールドを制限せざるをえなかった。使用した物質名はいえない。

**Q** 戦略指揮システムをもっているか?

カラム 指揮の意味を説明してほしい。われわれは協同して作業している。協同作業の頂点に兵器化がある。指揮・管制システムに関していえば、現在い

くつかの形式をもっており、それに向かって進みつつある。

**Q** インドは核兵器をもっているか?

カラム 首相はインドは核兵器国であると言った。NPT条約第9条を参照していただきたい。

**Q** シャクティ-1は熱核兵器ではなくブーストつき核分裂装置だと聞いているが?

チダムバラム 先にいったように、熱核兵器は2段階、つまり核分裂の引き金と第2段からできている。この装置は2段階でできていて、熱核兵器だった。

**Q** あなた方はいつ核実験を実施するよう告げられたか?

カラム 30日前である。

**Q** インドはいまや、未臨界実験、流体核実験、流体力学実験、そしてコンピュータによるシミュレーションに向

かって進みつつあるのか? それにはアメリカの国立点火施設のものと同様のレーザー核融合技術も含まれるか?

チダムバラム イールドは臨界超過の程度による。超過が大きいほどイールドが大きい。k<1ならば臨界未満である。われわれはアメリカの慣性閉じ込め核融合計画のことは知っている。それはペレットにレーザー・ビームを当ててある種の現象をシミュレートする。われわれは、われわれのしたことをしたまでである。

**Q** (ニューヨーク・タイムズ、J. ブーンズ):

インドは運搬可能な兵器体系を現にもっているか?

カラム DRDOとDAEの共同プレス・リリースを引用しよう。これは国家的使命である。首相はインドは核兵器国であるといった。

**Q** インドはさらに地下核実験をする必要があるか？ それとも今回の一連の実験で目的を達したか？

チダムバラム 5月13日のプレスへの声明を読んでよろしいか。計画した一連の地下核実験は完了した。

**Q** パキスタンの核爆発はあるか？

カラム この記者会見に来る時点でわれわれは知らない。われわれがやったのはインドの安全保障のためである。

**Q** 熱核兵器であって、ブースつき核分裂ではないことは確かか？

チダムバラム すでにいったように、熱核兵器は2段階になっていて、核分裂の引き金と第2段でできている。ブースつき核分裂装置は水爆ではない。水爆は二つの部分からできていなければならない。

**Q** インドは原子力計画を平和利用と軍事利用に分離し、DRDOは軍事部門を担当すると聞いている。また、平和利用の原子炉を保障措置（訳注：国際原子力機関の）もとにおくつもりか？

カラム あなたのいわれることがわからない。われわれは協力して存在し、協力して運営している。たがいに他の仕事をひき継ぐ必要はない。

チダムバラム その通り。

**Q** 経済制裁はBARCやDRDOにも影響するか？

カラム 技術面でわれわれは長年制裁を受けてきた。スーパーコンピュータの導入を拒否されたときにもわれわれは前進して自前のものを作った。宇宙開発計画でも、極低温エンジンを拒否されたときも前進して自前で作り、来年には出来上がるはずである。誰もわれわれを技術的に困らせることはできない。挑戦することによってわれわれは力を発揮する。

チダムバラム つけ加えていえば、二十数年間われわれは技術管理の体制に直面してきた。そのことで仕事は遅れはしたかもしれないが、自己依存を増大させた。現在のインドの原子力計画

はほとんど100%が国産である。

**Q** 坑道の深さはどれほどか？

チダムバラム それはいえない。

**Q** 一番近い村はどのくらい離れていたか？

チダムバラム 5km少しであってケトライ村である。爆発のイールドはそこから決められた。

カラム 水爆の規準はその村の位置に基づいて決められた。

**Q** そうすると、もっと大きな規模の実験もできたのか？

チダムバラム その通り。

**Q** インドはいま核兵器技術のどのあたりにいるのか？

カラム 5月11日の三つの核実験、つまり水爆と核分裂装置とキロトン未満装置、およびその後の二つのキロトン未満装置によって、われわれの核兵器技術は自分を信頼できる段階に達したことがはっきりと立証された。要求があれば、それを行うことになる。

**Q** 同時爆発を行った理由は何か？

チダムバラム 二つの装置、すなわち熱核装置と核分裂装置とは1km離れていた。一方の爆発によって他方が被害を受けないようにする必要があり、衝撃波は何ミリ秒かで伝わる。それゆえ同時に爆発させた。それは比較的簡単なことで、一つのボタンで三つの装置を爆発させた。われわれは地震測定を行い、加速度計のデータもとった。

**Q** 水爆のエネルギーのうちどのくらいが熱核反応によるものか？ 実験および兵器化のコストは？

カラム コストについてはそれほどの巨額ではない。関係省庁の予算で、多少とも通常の活動に割り当てられたものから引き当てられた。

チダムバラム エネルギーの割合に関

しては総計で45キロトンだったが、核分裂の引き金は核分裂装置のエネルギーと同等である。

**Q** これらの核弾頭はプリシビとアグニ（ミサイル）に取りつけ可能なものか？

カラム われわれのもつミサイルは、どんな種類の弾頭も、つまり通常弾頭でも核弾頭でもその重量、大きさ、および周辺環境条件に従って運搬可能である。ミサイルは運搬手段にすぎず、花だって運ぶことができる。

**Q** 弾頭の小型化を計画しているか？

カラム すでにいったとおり、兵器化は、大きさ、重さ、性能特性、および環境条件にかかわるものである。

**Q** サンドルジ將軍とK. サブラマニアンはインドは100個の弾頭を必要とするといっているが、同意するか？ 生産はいつから開始するか？

カラム 数については専門家によって違う。私はノーコメントです。

**Q** アメリカは核装置を備蓄している。インドの場合の必要数の限度は？

カラム 私は核兵器の拡散問題を研究してきた。アメリカは何万個かの弾頭をもっている。核弾頭は政治目的および商業目的で用いられる。われわれの地域においては、商業上の関心から拡散する事態を見てきた。われわれの開発はそのようなものではない。われわれの場合にはわが国の安全保障のためである。

**Q** アメリカの監視システムはインドによって意図的にだまされたのか、それとも偶然か？

カラム ノーコメント。われわれはこの仕事を求められたとおりにやった。

**Q** インドはパキスタンの爆弾の大きさや爆発力を測定する技術をもっているか？

チダムバラム 爆発前のことか後のこと  
6ページ下段へつづく ➡◆

# 「沖縄をハーグへ！」

## ジュネーブで訴え

「ハーグ平和アピール1999」第2回組織委員会

「ハーグ平和アピール1999(HAP99)」は、そのキャンペーンの頂点として1999年5月10～16日に国際市民平和会議をハーグ(オランダ)で開催する。それは、1899年に開かれたハーグ万国平和会議の100周年記念として、5月17～18日にハーグで開かれる政府の専門家会議と密接に関係しつつ行われる。政府会議の準備会「99年フレンズ」にHAP99の代表も参加している。

HAP99組織委員会は約30のNGOで構成されているが、太平洋軍備撤廃運動(PCDS)もその一員となっている。日本のピースボートもメンバーとなっている。HAP99の詳細は本誌62号を参考にさせていただきたい。

5月8～9日、ジュネーブで第2回組織委員会が開催された。PCDSから梅林が

参加した。そこでPCDSは沖縄問題を提起した。

### ◆ハーグにおける「沖縄」の意義

21世紀の平和戦略を話し合おうというHAP99のキーワードは二つある。一つは「戦争の禁止」、もう一つは「国際法」である。そのために、1. 軍縮、2. 国際法秩序や制度の強化、3. 紛争の予防と平和解決、4. 戦争の根源、が主要テーマとしてとりあげられる。この世界的な会議の場において「沖縄の闘い」を対象化することは大きな意味がある。

まず、戦争の証言者として。沖縄は島全体が戦場となり、戦闘に動員された歴史の証言者である。その体験は「軍隊は市民を守らない」「戦争はいやだ」という感情として、風化があるとはいえ、今も生

きつづけ発信しつづけている。

第2に、その沖縄に米軍の前進基地を維持しようという日米政府の圧力に対して、世界の人があるべき抵抗が続いている。ここには軍事力で平和を維持しようとする20世紀の遺物が凝縮して存在している。21世紀の軍縮課題を国際法の文脈で考えるとき、まず平和時の領土・領海外への軍隊派遣の禁止、排他的軍事同盟の禁止というテーマが検討されるべきである。沖縄の抵抗は、その問題を具体的に提起している。

具体的な取り組みとして、①「平和の礎」のミニチュア模型や写真パネルの展示を行い、その思想性を表現すること、②沖縄県民派遣団を組織し、展示の場での基地問題の宣伝活動を行うこと、③国際平和市民会議での発言を確保すること、などが考えられる。

### ◆会議と祭り

ジュネーブでの組織委員会には世界

8ページへつづく◆

### ◆← 5ページからつづく

か? もちろんわれわれは遠隔地震計を使って彼らの実験を検知する手段をもっている。しかし彼らの計画については何も知らない。私はパキスタンを訪ねたこともない。われわれの実験では、記録された波形は、同時爆発のゆえに混乱した。事実、アメリカにある国際データ・センター(IDC)はインドの実験を地震と記録した。

Q アグニ計画をさらに進める予定は?

カラム 必要なら必要な数だけ製造できる。到達距離を伸ばす必要があればそうできる。

Q さらに核実験をする必要はあるか?

チダムバラム プレスのための声明を見ていただきたい。

Q 何個の地震計が使用されたか? また三つの実験とバックグラウンドの雑音を区別できるインドの能力はどんなものか?

カラム 発表できない。

チダムバラム 地震信号を記録するときにはバックグラウンドの雑音や人為的な雑音が存在する。それに検出限界

がある。CTBTでは1キロトンとされている。われわれは地震波形と爆発波形を区別するソフトウェアをもっているが、強度ないし「イールド」についてはファクタ2程度の誤差がありえよう。

Q 1995年に準備されたサイトと同じサイトが今回使われた疑いがあるが、事実か?

チダムバラム 当時、メディアの無責任な報道の反響には応えないといったが、その答は変わらない。

Q サイトはまったく新しく用意されたものか?

チダムバラム ノーコメント。

Q 1974年以降、なぜ24年もかかったのか?

答 ノーコメント。

Q 五つの実験からデータを収集したが、今後の開発はCTBTの枠内でやれるか?

チダムバラム いい質問だかノーコメント。

ト。

Q 実験はなぜいつも5月に行われるのか?

答 とくに理由はない。

Q 1974年と1998年の実験の共通点は? 次回は?

チダムバラム 今回は一つの里程碑である。適当な折りにお伝えする。

Q アグニミサイルに関して何か予定されている変更はないか? 固体液体燃料を全部液体燃料に変更するとか? 到達距離を伸ばすには形状はどうなるか?

カラム 到達距離は変更できる。

Q 科学者たちはいつから準備していたか?

チダムバラム 1974年以来われわれは知識をもっている。技術と知識はずっと改良され続け、洗練されてきた。

Q インドは検知されないよう特別に実験を準備してきたのか?

チダムバラム それは違う。

Q しかしCIAは検知できなかったではないか?

チダムバラム CIAに質問するべきだ。

(訳: 大塚益比古)

(12日)／ロ・プリマコフ首相、対インド制裁不支持表明(12日)／カナダ首相、対インド制裁検討と語る(12日)／世界銀行、対インド融資凍結検討開始(12日)／英首相府、対インド制裁せぬ方針明かす(13日)／米大統領、核拡散防止法に基づく経済制裁発動発表(13日)／仏バイヤン議会議長、米の対インド制裁に支持表明(13日)／中国、制裁に慎重な姿勢(13日)／中国、「国際的な潮流に反する」と批判(13日)／イラン外務省報道官、深い憂慮の念表明(13日)／中国、強い非難の声明発表(14日)／バーミンガム・サミット、核兵器などの「国際的不拡散体制支援のための協力関係継続、強化」盛り込む首脳宣言発表。核開発狙う国々への対抗措置には触れず(17日)／米バーガー大統領補佐官、インドの安保理常任理事国入り反対の方針表明(17日)／ブラジル、インドとの「原子力エネルギーの平和利用協力に関する合意」の一方的破棄決定、インド政府に通告(18日)／中国人民解放軍機関紙が強く批判(19日付)／イラン・デイリー紙、パキスタンは核実験すべきと主張(20日付)

## 国会レポート

第142回通常国会  
衆議院(1998.3.12~3.15)

(作成:佐藤毅彦)

3月12日(木)

[本会議]

●白保台一(平和):沖縄基地問題

[内閣委員会]

●倉田栄喜(平和)●瀬古由起子(共産):旧日赤救護看護婦等への慰労給付金

[安全保障委員会]

●浅野勝人(自民):①新ガイドライン-国内法整備/周辺地域/事前協議;②沖縄基地問題-反戦地主

●岡田克也(民友連):①新ガイドライン-周辺事態;②国連決議に基づかない米国の武力行使;

③イラクによる国連査察受入問題;④在韓米軍

●石井紘基(民友連):①新ガイドライン-周辺事態;②日ロ関係-日ロ首脳会談;③防衛庁と防衛関連産業との関係

●赤松正雄(平和):①新ガイドライン-周辺事態;②イラクによる国連査察受入問題;③日ロ関係-海上自衛隊とロシア海軍との共同訓練/ロシアの核管理;④中期防見直し

●西村眞悟(自由):①日朝関係-日本人拉致疑惑;②日本・インドネシア関係;③対地雷全面禁止条約-新ガイドラインとの関係;④有事法制整備

●中路雅弘(共産):イラクによる国連査察受入問題

●辻元清美(社民):沖縄基地問題-普天間基地移転/GAO報告書

[沖縄及び北方問題に関する特別委員会]

●原口一博(民友連):①日ロ平和条約締結交渉-北方領土問題;②沖縄基地問題-普天間基地移転/海兵隊駐留の意義/GAO報告書;③在日米軍-施設・区域ごとの兵力・負担金額;④日米

## 地平線

(助言者のエッセイのコラムです。)



関千枝子

ノンフィクション作家。貧困の女性化、平和・戦後補償などをテーマに活動。主著に「広島第二県女二年西組一原爆で死んだ級友たち」「この国は恐ろしい国-もう一つの後老」などがある。

# 「日本国憲法は“青春”」

皇居の堀に面した日比谷の第一生命本館に「マッカーサーの部屋」がある。戦後、連合軍司令部として接收された同館で総司令官ダグラス・マッカーサーが使用した部屋で、当時のたたずまいのまま保存、公開されている。1938年の建築のこの建物は当時の超一級の建築であり、空襲で焼け野原だった東京で最高のビルだったが、十六坪という大きさといい、シックだが落ちついた調度といい、贅沢ビル

安保-資料公開

●長内順一(平和):①日ロ関係-平和条約締結交渉/北方領土問題;②沖縄基地問題-普天間基地移転/沖縄振興策

●鰐淵俊之(自由):①日ロ関係-北方領土問題;②沖縄基地問題-沖縄振興策

●古堅実吉(共産):沖縄基地問題-普天間基地移転/GAO報告書

●上原康助(社民):沖縄基地問題-SACO最終報告/沖縄振興策

●仲村正治(自民):沖縄基地問題-普天間基地移転/沖縄振興策

●松本惟子(民友連):沖縄基地問題-沖縄振興策

●下地幹郎(自民):①対馬丸;②沖縄基地問題-普天間基地移転/沖縄振興策

3月13日(金)

[本会議]

●鈴木宗男(沖縄開発庁長官):沖縄振興開発特別措置法一部改正法案趣旨説明

●下地幹郎(自民)●原口一博(民友連)●白保台一(平和)●松浪健四郎(自由)●古堅実吉(共産)●濱田健一(社民):沖縄振興開発特別措置法一部改正法案

[外務委員会]

になれた今の目で見るとむしろ質素に見える。

さてこの部屋にマッカーサーが座右の銘とし、壁に掲げてあったというサミュエル・ウルマンの「青春」という詩が記念碑となって置かれている。

「青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の様相をいうのだ」にはじまり、「年を重ねただけでは人は老いない。理想失う時に初めて老いがくる。……人は信念と共に若く疑惑と共に老ゆる/人は信念と共に若く恐怖と共に老ゆる/希望ある限り若く失望と共に老い朽ちる……」(岡田義夫訳)。

私はマッカーサーと言う人についていいイメージは持てなかった。「日本国憲法」は、1946年2月日本政府の新憲法案を毎日新聞がスクープ、帝国憲法とさほど変わらぬ内容に驚いたマッカーサーが、GHQ民生局長に命じ1週間でつくらせた。天皇制を残し、戦争の放棄をすることが、絶対の指示だったことなど、今では広く知られている。しかし私は、当時の連合国のなかの軋轢で、天皇制を残すため仕方なく戦争放棄を命じたと思っていた。が、この詩を読み、当時のマッカーサーは理想主義に燃えていたのかもしれない、六十六歳の、「青春」だったのかもしれない、と思うようになった。

ご存知の通り、1950年朝鮮戦争勃発。司令官となったマッカーサーは、軍隊のないはずの日本に警察予備隊を作り(後の自衛隊)、中国東北部への空襲(原爆使用)など強攻策を唱え、トルーマン大統領と衝突、更迭された。「老兵は死せずただ消え去るのみ」の言葉は皮肉である。そして52歳となった「日本国憲法」は、冷戦構造の崩れたいま、いよいよ理想に輝き「青春真っ只中」である。憲法は古くなったと言う人に言おう。「理想ある限り老いない」。

●阪上善秀(自民):①在外公館・職員;②日ロ平和条約締結交渉-北方領土問題

●玄葉光一郎(民友連):①在外公館・職員;②在ペルー日本大使公邸占拠事件;③政府開発援助(ODA)

●山中アキ子(平和):①在外公館・職員;②国連派遣職員給与二重払い;③イラクによる国連査察受入問題

●西田猛(自由):①在外公館・職員;②新ユーゴスラビア情勢;③新ガイドライン-法的性格/国内法整備/周辺事態

●松本善明(共産):①在外公館・職員;②イラクによる国連査察受入問題

●伊藤茂(社民):①在外公館・職員;②日米安保条約-事前協議

[厚生委員会]

●山本孝史(民友連)●福島豊(平和)●久保哲司(自由)●瀬古由起子(共産):戦傷病者戦没者遺族等援護法及び戦没者の父母等に対する特別給付金支給法一部改正法案

[予算委員会]

●東祥三(自由):①沖縄基地問題-普天間基地移転;②新ガイドライン-国内法整備;③PKO協力法改正;④外交政策-憲法上の制約

◇◇◆◆◇◇

